



「つながる。ハーベスト」第9弾
しれところば (斜里町)

とよしま
豊島

かずとし
和敏氏



北海道のオスメのワーク施設とそこで出会いを創り出す「コンシエルジュ」をご紹介する「つながる。ハーベスト」。
第9弾は、世界遺産・知床を有する斜里町の「しれところば」を運営する豊島和敏さんにお話を伺いました。



「しれところば」とは？

「こちらにはテレワークセンターという位置づけですが、基本的には企業向けの施設なのでしょうか？」

はい。企業の方に使ってもらうための施設で、事前に申込みいただければ、1階のワークスペースと2階の宿泊スペースを無料でご利用いただけます。

「無料とは凄いですね！改めてこちらを立ち上げた経緯や施設のコンセプトを教えてください。」

斜里町では、2015年に総務省の「ふるさとテレワーク実証事業」に採択されたことを機にテレワークの呼び込みを始めました。当時はテレワークがあまり認知されていない時代でしたが、行政よりも民間の人間が対応した方が良いとの声があり、町内の不動産業や司法書士、ペンション経営など様々な業種に携わる有志が集まり、「知床スロウワークス」を立ち上げました。

つながる。HUB

斜里テレワークセンター しれところば

(一社) 知床スロウワークスが運営する、斜里町市街地にあるテレワークセンター。1階にワークスペース、2階には居住スペースを併設しており、事前の申込みにより無料で利用できる(条件あり)。レンタサイクルやアウトドア道具の貸出も行っており、長期滞在も快適◎



住所：斜里町本町41-4
H P : <https://www.shiretokolabo.com/>
※施設詳細はHPをご確認下さい

【斜里町へのアクセス】
 + 最寄りの女満別空港まで
 札幌(千歳)から約40分
 東京(羽田)から約90分
 + 女満別空港から斜里町まで
 車で約60分

知床スロウワークスHP



「コロナ禍を契機にテレワークやワーケーションに取り組む地域は多いですが、2015年開始とは時代を先取りしていますね！「スロウワークス」では具体的などのような取組をされていますか？」

仕事支援としては「しれところば」の管理運営、(テレワークに対する)生活支援としては町内の飲食店や観光情報の提供等を行っています。首都圏から来られる方は、きっと斜里町のことをあまり知らないもので、生活や仕事をやる上で困っていることをサポートしています。

あと、スロウワークスの取組としてはここがポイントとなりますが、斜里町民にもテレワークを知ってもらうために、シンポジウムや勉強会を行ったりもして



「しれところば」とは？

「テレワークに来られる方は、どのような業種の方が多いのでしょうか？」

います。
しれところばを利用する方への対応はスロウワークスのメンバーが行っているのでしょうか？」

「しれところば」に事務局の職員が一名常駐して、受入の対応をしています。メンバーはそれぞれ会社を経営しているのですが、毎日難しいのですが、来られた方から寄せられた要望に応じて対応しています。

「様々な業種に携わられているメンバーの方が、それぞれの得意分野を生かして対応されるということですね。」

そのとおりです。暑い夏の時期には、しれところばの建物の前のスペースでBBQしたりしますよ。

つながる。インタビュー



インタビューに応じる豊島氏。奥に見える駐車場スペースでは、来訪した企業と地域住民と一緒にBBQをすることも。

受入開始当初はIT企業が一番多かったのですが、今はいろいろな方に来ていただいています。以前は年間250名くらい受け入れてまして、コロナ禍で大分落ち込みましたが、令和4年は6月から10月頭までずーっと予約で埋まっています。

「やはり、「無料」で利用できる施設という点も大きいと思います。」

数多くの企業が訪れている中で、地域とつながったエピソードがあれば教えてくださいませんか？」

2019年に「Prop Technus(株)」という東京の企業がテレワークにきたのを契機に、同社とスロウワークスを中心とする町内有志がチームを組み、「しれところばドローンフェスタ」を開催しました。町内の峰浜地区のスキー場は、夏場一切使われていないので、そこを活用し、ドローンレーサーを12名ほど呼んで、会場には700名ほどが来場し、オンライン配信もあわせる

つながる。
ひと

**(一社) 知床スロウワークス会長
豊島 和敏 氏**



斜里町出身。斜里高校卒業後、地元企業に就職。2012年、事務用品を取り扱うピックス(株)を設立。2015年に町内有志により発足した「知床スロウワークス」は、2019年に法人化。本業の傍ら同法人の会長を務め、他のメンバーと共に、斜里町とテレワーカーの橋渡し役として活動している。

知床スロウワークス
Facebookページ



斜里から目指すもの

「企業はどのようにして」「これから何を知らなければならないか?」

□□□□で来られる企業が多いですね。

と千人以上に見てもらいました。あと斜里町では、毎年「ねぶた祭り」を開催しているのですが、町内の参加者が年々減少していることが課題になっていきます。ちょうどお祭りの時期に損保ジャパン(株)と(株)日立製作所の社員がテレワーク合宿に来ていて、是非地元のお祭りに参加してみたいとのことで、1週間ほど山車や太鼓の練習をした上で、お祭りに出てもらいました。

斜里を好きになってくれてリピートしてくれている東京の企業も何社かあって、ありがたいことに広めてくれています。

我々も年2回ほど東京に行って、いつも来てくれる企業やこれからの企業にもご挨拶しています。あと、「知床しゃりふるさとテレワーク交流会」として、斜里に来てくれたテレワーカー同士の交流イベントを毎年首都圏で開催していて、令和4年は11月に開催されたのですが、斜里町長も含め43名が参加しました。これはなかなか盛り上がりですね。

東京にしながらも定期的に斜里町と接点をもてるのが益々愛着がわきますね。

ちなみに、これからはどのような企業に来てもらいたいと考えていますか?

首都圏では働き方を変えようという思いを持つグループが増えていて、その中で斜里を紹介してくださる人もいますので、つながりが広がっていくといいなと思います。来てくれるなら、どのような企業であってほしいですね。

ただ、目指すところとしては、テレワークをするだけではなく、外部からの視点でまちづくりを考えてくれたり、自社の強みを生かして地域の小中学生に授業してもらったりと、地域と深くつながってもらい、斜里町を好きになって、また仲間を連れて戻ってきて欲しいと考えています。

そして、将来的には斜里にオフィスを設けてくれたりすればうれしいですね。



斜里町のおススメ

「テレワーカーの方々に地域のおススメを聞かれたときには、どういったものを答えているのでしょうか?」

これから(冬)の時期であれば、やっぱり流水ですね。流水の上に乗って歩く体験は、北海道でもオホーツク海側くらいしかやっていないとても貴重な体験なのでおススメしています。今後、流水が来なくなる可能性もあるので、ぜひ今のうちに体験して欲しいです。

夏であれば、世界遺産・知床はもちろんですが、斜里町だけでなく、近隣の清里町の神の子池や、摩周湖が眺める曇摩周展望台もご案内しています。

「ワーケーションやテレワークで来られる方は、ある程度長期滞在になるので、近隣の市町村もご紹介いただけるのは嬉しいですね。食べ物のオススメはありますか?」

「匠の豚ーサチク麦王」という小麦を食べて育てた豚肉が名物でして、町内の飲食店でも提供されています。あと、スロウワークスのメンバーが「しれとくらぶ」というペンションを経営していて、喫茶店も併設しているので、冬はそこを使ってミーティングするのが恒例ですね。なかなかおしゃれなペンションですよ。

我々が出張のお土産によく持参するのは、「さざ波サーモン」かなあ。斜里は鮭の水揚げ量が日本一のまちですが、お酒を飲まれる方にはびっぴりの一品です!」

「最後に、これから斜里町、「しれとくらぶ」に来られる方にメッセージをお願いします。」

斜里町内だけだとなかなかつながらず上手いかないことがあるので、外から来られる方の力を借りて、点と線をつなぐイメージで一緒に一緒にできたらと思います。

来てくれた方々にも斜里町の人やモノを色々ご紹介させていただきます。いきなり移住や企業進出とはいかなくとも、そこからちょっとずつ、お試しや夏場だけでも来て下さる方が増えてくれれば嬉しいです!

「ありがとうございました!次回は斜里町にもほど近い北見市を訪問します。お楽しみに!」

おススメ!

野尻正武商店の「さざ波サーモン」



知床産のオホーツクサーモンを独自の醤油ダレに漬け込み製造した鮭とば。「とば」とは鮭を干したもので、北海道ではお酒のお供やお土産によく利用されています。

野尻正武商店
公式HPはこちら



<https://nojiri.co.jp/>